

2016年度 学長賞・学長奨励賞

1団体と個人3名が選出される



第8回学長賞および学長奨励賞の受賞者が決定した。これは、創立100周年記念事業の一環として2009年から設けられた学長表彰制度。本学の学生または学生団体を対象としており、学術研究活動、課外活動、社会貢献、国際交流等の各分野において、他の学生

学長賞	受賞者および受賞内容、おもな受賞理由
社会貢献	個人 総合人間科学部教育学科4年 山下 龍彦 ・NPO法人CATIC(World Theater Project)副代表理事 ・カンボジア王国現地リーダーとして、移動映画館という教育・文化的なアプローチでの支援を実施 ・NPO法人CATIC(World Theater Project)の副代表理事として、途上国の子どもたちを対象にした移動映画館プロジェクトに携わる。在学中に履修したカンボジア語を活かし、カンボジア王国現地リーダーを務め、5人のカンボジア人と共に週2〜3回の映画上映を2拠点で実現させた。また現地主導で持続可能な仕組みを構築し、現在は現地の人々により当該プロジェクトの実施が引き継がれている。上映会へ参加した子供たちは24,445人にのぼり、その活躍はメディア(NHK WORLD)でも紹介された。上智大学の理念「Men and Women for Others, with Others」を体現した活動およびその成果を高く評価。
課外活動	個人 総合人間科学部社会学科4年 濱野 俊平 ・ラグビー男子15人制日本代表アナリスト ・リオオリンピック男子7人制ラグビー4位(代表総務サポート(アナリスト)として参加) ・U20アジア7人制ラグビー大会3位(アナリストとして参加) ・スーパーラグビー サンウルブズ(日本チーム)にアナリストとして参加 本学体育会ラグビー部で活動する一方、7人制ラグビーの日本代表チーム合宿に数回サポートスタッフとして帯同。活躍が評価され、2016年のリオオリンピックにおいて代表総務サポート(アナリスト)に唯一の学生スタッフとして選出、日本代表が4位になるという目標を達成した。同年10月からは男子15人制日本代表のアナリストとして、2017年からは世界最高峰のラグビーリーグ「スーパーラグビー」の日本チーム「サンウルブズ」のアナリストも兼任するなど、2019年のワールドカップにおけるチームとしての躍進を目指す。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本学は若い世代の活躍を支援する取り組みを進めているが、その先駆けとして活躍および貢献を示したことを高く評価。

学長奨励賞	受賞者および受賞内容、おもな受賞理由
学術研究活動	団体 文学部新聞学科2年 松本 日菜子(代表) ・「ヒューマンドキュメンタリー映画祭<阿倍野>2016」最優秀作品として選出 タイトル:「軍属だったひいおじちゃん」 文学部新聞学科・水島宏明教授が指導するゼミに所属する学生3人が、ドキュメンタリー映画「軍属だったひいおじちゃん」を制作。ドキュメンタリー映画の登壇門「ヒューマンドキュメンタリー映画祭<阿倍野>2016」において、38作品の中からグランプリにあたる最優秀作品に選出された。 この作品は、松本さんの曾祖父が太平洋戦争中に商船会社に勤務し、「軍属」としての任務で物資輸送中に攻撃を受けて死亡した事実を、ひ孫である松本さん自身が関係者を訪ね、その背景を検証した17分あまりのドキュメンタリーとなっている。 本学の学生がこのコンテストで賞を贈られるのは初めての快挙であり、学業の専心による成果および本学の名誉向上に貢献したことを高く評価。
国際貢献	個人 法学部地球環境法学科3年 安 星(所属:中国留学生会) ・「留学生が留学生を支援する」というテーマに基づいた中国留学生会での企画・運営 ・「留学生が留学生を支援する」をテーマに、当事者だからこそ理解できる留学生の不安を取り除くべく、さまざまな支援企画を実現。入学前の日本語学校学生向けに「進学説明会」として大学生活の紹介や勉強方法のアドバイスを行うほか、入学後には「新生活歓迎会」、「履修登録方法説明会」、「各種講演会・勉強会」、「企業見学・座談会」の開催や、アルバイト・インターンシップの紹介まで、留学生の学生生活全般を入口から出口までサポートしている。こうした活動には、本学の日本人学生や中華人民共和国駐日本国大使館、一般社団法人アジア平和貢献センターの要職者も招待し、国際交流の活性化ならびに日中の「平和」「友好」を考える機会も提供している。 異なる文化や国籍を持つ学生が集い、その多様性を尊重したキャンパス環境のさらなる充実化を図る本学において、当該活動の貢献度を高く評価。



伝統舞踊と共に石工が登場

国際公開講座 カンボジア人熟練 石工の伝統技法

3月17日には新棟竣工法が6号館ソフィアタワー記念として、アジア人材ワー101教室で開催された。養成研究センター主催の国際公開講座「カンボジア人熟練石工の伝統技法」が、約90人が参加した。第一部では、アンコール地域遺跡整備機構(ア

カッションが行われ、日本大学名誉教授の平山善吉氏、全国優良石材店の会副会長の石井幸弘氏、アサハラ機構石工棟梁のハウ・トイ氏が登壇。石澤良昭アジア人材養成研究センター所長が司会進行を務めた。その後、現地で行われている工事の安全を祈る奉納舞踊が披露された。第三部では、石材加工の模範実演を実施。カンボジア王国から特別に貸し出されたアンコール・ワットの石材を使って、現場で修復工事に携わるカンボジア人石工が伝統的な石材摺り合わせ技法、石削り技法、石材移動を披露した。日本人の石工も参加し、カンボジア人の石工とともに緻密かつ繊細な石削りのテクニックを披露すると、会場からは感嘆の声が上がった。



2月2日、四谷キャンパス2号館国際会議場には本学学生をはじめ各パース2号館国際会議場に、ローマ法王庁外務長官、ポール・リチャード・ギャラガー大司教の特別講演「平和文化の促進」が参加した。

「平和文化の促進を訴える」

さまざまな紛争や複雑な社会情勢を抱える現在において「平和文化の促進こそが、人々を真の平和に導く鍵となる」とギャラガー大司教は強調した。府においては自国民の安全のみを保障することに

質疑応答で、難民・移民の入国制限を打ち出したアメリカのトランプ大統領についての意見を求められた大司教は、一国の政治へ介入する立場ではないとした上で、どんな政策も状況によって変化すること、見守る姿勢を示した。

また、シリアで困窮を強いられつつある少数派カトリック信者についての

ローマ法王庁外務長官
ギャラガー大司教特別講演

「平和文化の促進を訴える」

個人レベルでは平和への権利の理解、社会全体においては異なる主義主張を唱える人々が和解するための働きかけ、政府においては自国民の安全を確保することに

質疑応答で、難民・移民の入国制限を打ち出したアメリカのトランプ大統領についての意見を求められた大司教は、一国の政治へ介入する立場ではないとした上で、どんな政策も状況によって変化すること、見守る姿勢を示した。

また、シリアで困窮を強いられつつある少数派カトリック信者についての



2014年11月から工事が完成し、3月16日に竣工式典を挙げてきた6号館「ソフィアタワー」が完成し、3月16日に竣工式典および竣工記念講演会が行われた。

式典で挨拶する高祖理事長

の設計

高祖理事長は挨拶で、

「ソフィアタワー」のオープニングセレモニーが開かれ、高祖理事長、佐久間勤、高祖敏明理事長、佐久間勤総務担当理事、早下隆士学長によるテープカットが行われた。

その後、竣工記念式典に続き、竣工記念講演会が101教室で行われた。

高祖理事長は挨拶で、

「ソフィアタワー」建設に込めた思いとして、本学のミッションである「叡智をつなぐ」と名づけた帯状の装飾が、上智の過去から現在、そして未来へのつながりを表現しているとの説明があった。

次に、展示コーナーのオープニング企画である「アンコールワット遺跡群発掘調査の成果」に関する来賓としてアンコール地域遺跡整備機構「人材へと育てること(アプサラ) 遺跡局局長が「つなぐ」という意味にあると述べた。

第二の柱は「上智大学」とさまざまな意味での世界をつなぐ、ことである。展示コーナーの企画ではカンボジアの遺跡発掘成果を紹介する一方、近隣の麴町、紀尾井町、番町をはじめとする地域の文化や歴史を展示することで「街や地域とキャンパス」をつなぐ空間になっていると語った。

第三の柱は「安心と安全」であり、建物の構造、設備、環境計画、防災計画の随所に「安心と安全」の要素が盛り込まれていることを説明した。

続いて、石澤良昭アジア人材養成研究センター所長による竣工記念講演「人を育て、アンコールを守る」建学の精神に基づく惜しみなき国際貢献」が行われた。

その後、竣工記念祝賀会が3階の302教室にて行われ、和やかな雰囲気の中でソフィアタワーの完成を祝った。

式典・竣工記念講演会
展示コーナーもお披露目

「ソフィアタワー」竣工記念講演会

展示コーナーもお披露目

「ソフィアタワー」建設に込めた思いとして、本学のミッションである「叡智をつなぐ」と名づけた帯状の装飾が、上智の過去から現在、そして未来へのつながりを表現しているとの説明があった。

次に、展示コーナーのオープニング企画である「アンコールワット遺跡群発掘調査の成果」に関する来賓としてアンコール地域遺跡整備機構「人材へと育てること(アプサラ) 遺跡局局長が「つなぐ」という意味にあると述べた。

第二の柱は「上智大学」とさまざまな意味での世界をつなぐ、ことである。展示コーナーの企画ではカンボジアの遺跡発掘成果を紹介する一方、近隣の麴町、紀尾井町、番町をはじめとする地域の文化や歴史を展示することで「街や地域とキャンパス」をつなぐ空間になっていると語った。

第三の柱は「安心と安全」であり、建物の構造、設備、環境計画、防災計画の随所に「安心と安全」の要素が盛り込まれていることを説明した。

続いて、石澤良昭アジア人材養成研究センター所長による竣工記念講演「人を育て、アンコールを守る」建学の精神に基づく惜しみなき国際貢献」が行われた。

その後、竣工記念祝賀会が3階の302教室にて行われ、和やかな雰囲気の中でソフィアタワーの完成を祝った。